

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

## 主 論 文 の 要 旨

論文題目

現代中国語における日系外来語の受容について

氏 名

劉 喆

## 論 文 内 容 の 要 旨

二つの文化が接触する時には、必ず語彙の交流現象が起こる。この分野を研究することは、言語学にとって重要な意味があるだけでなく、社会的、文化的価値も有している。古くから日中両国は、絶えず文化交流を行ってきた。特に言語の領域では、漢字が日本へ伝わり、日本語に大きな影響を与えた。一方、明治維新後には、今度は日系外来語が中国に導入されるようになった。さらに中国の改革開放以後、再び導入が盛んになった。日系外来語の導入はこのように2つのピークがあった。また、ごく最近、ネット上の新日系外来語が若者の間で流行していることも注目される。

外来語は、言語の語彙システムを補完するために導入されると一般に言われているが、1984年に出版された『漢語外来詞典』では日系外来語の数は862であり、現代中国語の外来語総数の約3割を占めていて、近年さらに増え続ける傾向にある。そのため、本論文では、現代中国語の外来語の中に日系外来語が多い理由を考察した。

19世紀末から20世紀初期までの時期が日系外来語導入のピークであり、論者が調べた結果、1186個（付録「日系外来語一覧表1」を参照）の日系外来語が、各分野にわたって中国語に導入されたことがわかった。その中には「回帰詞」があり、新旧の意味を比較してみると、意味の拡大や縮小などが観察された。そして、中国の改革開放以後に導入された日系外来語は247個（附録「日系外来語一覧表2」を参照）あった。この時の流入ルートはそれまでと大きく変わり、外来語が導入された分野も異なっていた。用例分析によって日本語の原語の意味と対照した結果、やはり意味の拡大、縮小などの変化が起こっていた。この時期の日系外来語は中国文化、歴史、特に言語の面に大いに影響を及ぼしている。言語の面でも、接辞の増加、二次的造語、類義語の増加などの影響があった。また、ごく最近の新日系外来語についても分類を行い、最新の用例を挙げて分析した。言語、社会への影響には、肯定的な面と否定的な面の両方があることにも注目する必要がある。

日系外来語が多く受容された背景には、時代背景や翻訳理念、中国人の訳者が「音

訳語」と「単音節」を好んだことなどの理由で、中国人の訳語の受容度が低かったことがある。一方、日系外来語が現代中国語に受容されやすかった要因としては次のような点が上げられる。まず、日中両言語の語彙を比較すると、造語法が近似している。また、日系外来語と中国語の固有語の意味論的な比較をすると、日系外来語は中国語の中で意味変化を起こしていることがわかった。このようなことが、数多くの日系外来語が現代中国語に受容された要因だと考えられる。